

平成28年度
「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」
実施報告書

日時 平成28年7月12日(火) 14時～16時

会場 大阪市立中央図書館 大会議室

平成28年度 大阪市子どもの読書活動推進連絡会

当日次第

日 時 平成28年7月12日(火) 午後2時～4時

場 所 大阪市立中央図書館 5階 大会議室

1. 開会あいさつ

2. 出席者紹介

3. 座長選出

4. 議 事

(1) 事務局報告

第2次大阪市子ども読書活動推進計画の策定後の状況

「子どものための施設ガイド・タッチ」についての報告 (生涯学習部)

大阪市立図書館子ども向け図書館サービスの推移

区の子どもの読書活動推進連絡会より (図書館)

「学校図書館活用推進事業」について (図書館)

(2) 実践事例報告

【報告1】「本に親しむ～様々な本と出会う学校図書館をめざして」

(墨江丘中学校教諭 安東実香)

【報告2】「笑顔いっぱい、絵本いっぱいの東淀川～東淀川区絵本読み聞かせ事業～」

(東淀川区・東淀川区役所保健福祉課子育て・教育グループ 浦上貴博)

(おはなしボランティア とことこ 代表 渡邊裕美子)

(3) 学識経験者、社会教育関係団体代表者より助言

(4) 質疑応答

5. その他

6. 閉会

目 次

実践事例報告【報告1】「本に親しむ～様々な本と出会う学校図書館をめざして」	2
実践事例報告【報告2】「笑顔いっぱい、絵本いっぱいの東淀川～東淀川区絵本読み聞かせ事業～」	4
意見交換	7
当日配布資料	
第2次大阪市子ども読書活動推進計画(概要)	11
第2次計画を推進するための重点的取組	12
子どものための施設ガイド タッチ	13
平成27年度大阪市立図書館子ども読書活動推進関係事業まとめ	15
平成27年度各区子どもの読書活動推進連絡会報告	19
「学校図書館活用推進事業」について	21
実践事例報告での配布資料	23
平成28年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会出席予定者名簿	41
平成28年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会事務局名簿	42

— 事例報告 —

【報告1】「本に親しむ～様々な本と出会える学校図書館をめざして」

(墨江丘中学校教諭 安東実香)

※パワーポイントの映像を見せながらの報告

墨江丘中学校の安東です。よろしくお願ひします。私が勤務しています墨江丘中学校は、南海高野線沢ノ町駅近くにある中規模校です。生徒数566名、各学年5クラス、特別支援学級が5クラスあります。学校図書館は教務部に属し、担当教員は6名おります。生徒の図書委員会があり、生徒たちが活動しています。

私は社会科の教諭をしています。校内の校務分担任として学校図書館に関わっており、J P I C読書アドバイザー、絵本講師の資格も取得しています。担任は受け持っていないのですが、3年生の進路指導主事もしていますので、学校図書館のことを生徒に指導できる時間は本当に少ないのが現状です。本日は、生徒たちに本と出会い、読書に導くために私が実践していることを3点と、学校を挙げて取り組んでいることを5点紹介します。

私の実践としての1点目は、授業の冒頭に行っている「絵本の読み聞かせ」です。ほぼ毎回、年間で80冊くらい読むこととなります。方針としては、①教材にしない②質問しない③強制しない④楽しむ、ということです。今までに読み聞かせた本は資料1のリストをご参照ください。さっと読んで、すぐその日の授業に入りますので、2、3分で読めてしまうような絵本が多いです。大阪国際児童文学館の特別顧問でいらした中川正文先生よりお聞きして、私が非常に感銘を受けた言葉は、「絵本とは読み手と聞き手がともに楽しみ経験を分かち合い成長するもの」というものです。目の前の生徒たちとともにこの時間・経験を楽しみたい、と思って毎回読んでいます。絵本が読書の入口になればいいと思って、学校図書館にも入口が目立つところにたくさんの絵本を置いています。息抜きに手に取ったり、わあ、なつかしい、これ好き、と言って読んでいる生徒もいます。絵本は、

子どもの時、自分が子育てをする時、そしてもっと人生を重ねた時の3度のシーンで楽しめるものだと柳田邦男さんの言葉にあるのですが、それかというと10代は一番絵本と離れてしまいがちな年代です。しかし、一方で感性が非常に豊かで、人間的な成長の時期でもあり、不安定さも持ち合わせている時期です。将来、生徒たちが親になった時に、子どもに絵本を読んであげられるきっかけになるようにという願いも込めて、今のこの時期に絵本に触れ、味わせたいと考えています。とはいえ、中学生ですので絵本ばかりではなくさまざまな本を読んでいってほしいところです。

そこで、実践の2点目として、「おすすめの本リストの作成」をしています。教職員全員と図書委員に紹介文を作成してもらい、冊子にして夏休み直前に配布しています。教職員には4月の職員会議で提案します。実際のところ原稿を集めるのがなかなか大変ではあるのですが、続けています。紹介された本は学校図書館にもそろえるようにしています。面白いことに、リストが配られてすぐに借りたい、読みたいという生徒ももちろんいますが、じわじわ利用が広がるということもけっこうあります。生徒たちにとって身近な教職員や図書委員が紹介しているというのは意義があると思っています。

実践の3点目は、「ミニブックトーク」です。朝の読書の時間や、学年集会の機会を活用して実施しています。テーマを決めて、学校図書館にある本を紹介するようにしています。紹介すると、これもすぐには借りていかれなくても、じわじわと広がっていくことも多いです。

続きまして、生徒たちを読書へと向かわせるために、学校として取り組んでいることの5点をお話しします。

1点目に、本校の朝の読書の時間については、6年前から全校で実施しています。全校集会などもありますので、週3日ですが、教職員向けにも図書館だよりを作って、10分間ただ読むだけ、教

職員も読む、漫画・雑誌以外何でも可ということ
を浸透させて、実施しています。朝の 10 分、本
当に静かな時間が流れます。常に読みかけの本を
1 冊、みんなが持っていることになるのですが、
中には全然読まない生徒もいます。その生徒をど
う導いていくかが課題です。

2 点目は学級文庫についてです。学級文庫は朝
の読書の助けとなるように、5 年前から全学級に
設置しています。2 年前からは、学校図書館支援
ボランティアさんが学級文庫を入れる箱を作っ
てくださり、活用しています。学校図書館の本をそ
の箱へ入れて学級へ運びます。学校図書館の本以
外でも、担任が自分の本を持ってきて設置する学
級もあります。

3 点目に本校の図書委員の活動について説明し
ます。本校では、昼休みに毎日図書館を開館し、
図書委員が当番をしています。他に図書委員の活
動としては、先ほど紹介しましたおすすめの本を
紹介する冊子に原稿を書くことと、図書館だより
の発行です。資料をつけておりますのでご覧くだ
さい。生徒が紹介した本はすぐに読まれます。ほ
かには文芸部の生徒も、本の整理などを手伝って
活躍してくれています。

4 点目に本校の学校元気アップ地域本部事業で
は、活動の 1 つとして、学校図書館の整備に取り
組んでいただいています。ボランティアの皆さん
には、本の整理や、牛乳パックで背あたり（本棚
の奥行きを調整するもの）を作ったり、季節にあ
わせて今なら七夕をテーマに館内の飾りつけをし
たり、読書会の開催や、本を薦めるための POP
を教員や生徒有志も巻き込んで作成したりなど
に取り組んでいただいています。また、朝読の時に
各学級に入って長めの絵本を読んでもらうこと
も始めています。たいへん生徒たちの反応も良く、
好評です。

最後に昨年度の 10 月より、学校図書館活用推
進事業として、各校に学校図書館補助員が週 1 回
配置されました。本校では火曜日に来ていただ
いていますので、その日は 10 時から夕方 5 時まで、
ずっと図書館が開いている状態になり、開館回数

の増につながりました。補助員は、本の整理、図
書館の清掃、パソコン登録作業などを行っていま
す。たとえ週に 1 度でも、本はきれいに並ぶし、
清掃も行き届くようになるし、本当に人が 1 人入
ると違うなあ、ということを実感しています。

毎日忙しい中ではありますが、生徒たちが読書
に親しみ、本を手にしてもらえるようにと考えて始
めたこれらの取組みは、いろんなことをとにかく
こつこつとやってみる、「下手な鉄砲も数打ちや当
たる」の考えです。読み聞かせは 2, 3 分、ブッ
クトークは 10 分程度のことですが、とにかく 1
年間ではたくさんの回数・冊数を読み聞かせたり
紹介できるのは、教員のメリットだと思います。

「本(モノ)と人(生徒)を結びつけるのは人！」
ということ、学校図書館補助員の導入で納得し
ています。教諭、補助員、ボランティア、さまざ
まな立場があっても、とにかく本を子どもたちに
手渡すことができる人がいてこそこの図書館だとい
う思いを強くしています。全国学力・学習状況調
査で、「読書が好きですか」と尋ねる調査項目があ
ります。本校もまだまだ決して高い数字は出てい
ないのですが、これからも、これらの取組みを通
して、子どもたちに働きかけていきたいと思いま
す。以上で報告を終わります。ありがとうございました。

【報告2】「笑顔いっぱい、絵本いっぱいの東淀川～東淀川区絵本読み聞かせ事業～」

(東淀川区役所保健福祉課子育て・教育グループ
浦上貴博)

(おはなしボランティア とことこ
代表 渡邊裕美子)

※パワーポイントの映像を見せながらの報告

東淀川区役所保健福祉課の浦上です。東淀川区で実施している「東淀川区絵本読み聞かせ事業」について説明いたします。

まずはじめに、事業実施の経緯をお話します。東淀川区では、ひとり親世帯や要保護児童など、支援を必要とする世帯が年々増加する傾向にありました。子育て支援室による支援が追いつかず、区を挙げて対策を講じる必要がありました。そこで、豊かな親子関係を構築し、育児不安を解消するための取組みの検討を始めました。そのための手法として絵本の読み聞かせに注目し、「妊娠期・乳幼児期から小学校卒業まで一貫した絵本の読み聞かせ習慣の定着」を図ることを目的に、平成25年度に事業を開始しました。絵本の読み聞かせを通じて、「親子の絆とふれあいの深化」「小学生の読書習慣の定着」さらに「情緒の安定・想像力の醸成・知識の習得」に結びつけていき、最終的な目的としては、児童虐待や学校でのいじめ等を未然に防ぐことを目指しています。本事業は、大阪府書店商業組合、出版文化産業振興財団(JPIC)、おはなしボランティアとことこ、JPIC読書アドバイザークラブの4者と東淀川区が業務委託契約を締結し、事業を展開しています。

次に、事業の柱として取り組んでいます、「絵本バンク」「ボランティアバンク」「えほんまつり」の3つについて説明します。

本事業に必要な絵本については、「絵本バンク」を設けて運用しています。各家庭で眠っている、読まれなくなった絵本を寄贈・協力依頼し、これまでの3年間で1,510冊の絵本が集まりました。集まった絵本は絵本バンクに登録し、読み聞かせ活動や貸し出しに用いるだけでなく、区役所や区役所出張所の待合スペースに絵本コーナーとして

活用しています。

続いてボランティアバンクについてです。読み聞かせ活動を普及させるために、事業開始当初から読み聞かせボランティアの養成研修を始めました。研修修了後、ボランティアバンクに登録していただき、自立した活動をしています。現在の登録ボランティア数は84名で、1歳6か月児健診の待合や妊婦教室での読み聞かせ、区役所出張所でのおはなし会、ブックスタートの会場での読み聞かせ、子育てサロンなどの子育て関連施設での読み聞かせに派遣されています。ボランティア派遣により、各地域や子育て関連施設で読み聞かせ活動が広がっています。これらの活動がさらに波及して、地域に読書に関するシニアのグループが形成されたり、子育てサロンの大半で大型絵本を所有するようになったり、地域独自でミニ絵本展を開催するなど、地域の読み聞かせ活動の活性化に結びついていっています。またボランティアのスキルアップのための研修も行っています。

3つめに、えほんまつりについてです。活動の集大成として、また読み聞かせの啓発活動として、これまでに3回開催しています。絵本作家によるおはなし会や、寄贈絵本を絵本展として展示するなど、親子で楽しめるイベントです。平成28年の2月に開催した第3回東淀川区えほんまつりでは、午前の部として絵本作家の長野ヒデ子さんにお越しいただき、「ふしぎと楽しい絵本と紙芝居」と題し、おはなし会とサイン会を開催しました。午後の部は、野の花文庫主宰の岩出景子さんによるわらべうた講座「親子で遊ぼうわらべうた」と、読み聞かせボランティアサークル「三丁目の鷹」主宰の鈴木健司さんによるおはなし会「絵本を楽しむ！」を開催しました。いずれも大変好評で、延べ500名以上の方に参加いただきました。今年度も2月中旬に開催予定です。本日もお集まりの皆さんも是非ご参加ください。

今年度の事業展開について2点説明します。

まず第1に、地域の主体的な読み聞かせ活動の促進です。昨年度も開催しましたが、地域の読み聞かせや読書に関するグループ・団体と情報交換

等を行う「絵本読み聞かせ活動交流会」の開催と、地域活動協議会を主体とした啓発活動を5地域で開催する予定です。これらの活動により地域での読み聞かせ活動が活発となり、区民の身近な場所に絵本や読み聞かせが存在している東淀川区を目指します。

第2に、区内保育施設と連携した取組みを開始する予定です。保育施設のお迎えの際に座布団と赤ちゃん絵本を用意し、1冊読み聞かせをして帰宅する「座布団読み」を普及させたいと考えています。読み聞かせを通じて親子がふれあう機会を作り、親子のつながりがより深くなることを目指します。

これらの取組みを継続的に行うことで、地域の読み聞かせ活動をより活性化させ、行政主体から地域主体での事業展開を目指します。各家庭（区民）のより身近なところで読み聞かせが行われることで、事業の目的である読み聞かせ習慣の定着・豊かな親子関係の構築・育児不安の解消に結びつけ、東淀川区の子育て環境の向上を目指します。

最後に金谷東淀川区長からのメッセージを伝えます。「私が区長に就任した当時、東淀川区ではひとり親家庭や要保護児童の数が年々増加しており、非常に危機感を感じました。豊かな親子関係の構築・育児不安の解消・子どもの情緒面の安定と発育促進に向けた施策が必要と考え、この「絵本読み聞かせ事業」を開始しました。事業はすでに4年目を迎え、区役所主体から地域主体への展開を始めています。区民の身近（地域）に絵本の読み聞かせがあることで、広く区民が読み聞かせに参加する機会が増えること、さらに、読み聞かせを受けた子ども達が子育てで世代になった際、自身の経験から育児に読み聞かせを取り入れ、各家庭に読み聞かせの習慣が定着することを目指しています。絵本を通じて、家庭・学校・地域のあたたかいつながりが広がる東淀川区、「笑顔いっぱい、絵本いっぱいの東淀川」をモットーに事業を展開して参ります。」

私からの報告は以上です。続きまして、委託事

業者4者を代表し、おはなしボランティアとことこの代表、渡邊さんより、事業の実施状況等について報告いたします。

渡邊です。私たちのおはなしボランティアとことは、もともとは東淀川図書館が建替えられた（平成10年3月）のを機に、図書館を拠点とする読み聞かせボランティアグループとしてスタートしました。現在16名が活動しています。その後、各区の図書館に絵本の会ができたり、ブックスタート事業が始まったことで、とことこのメンバーもさまざまな活動に参加していくことになりました。また、小学校の学校図書館活性化事業や子育てサロンなど地域での活動に関わっていくメンバーもたくさん出てきました。そうして、区内で読み聞かせに関わっていくグループ、子どもに関する活動や、子育てサロン、生涯学習、図書館、学校図書館活性化事業の活動をするグループが互いに横のつながりを深め、図書館を中心としてネットワークをつくり、情報や課題を共有していくようになりました。

平成24年12月に、区内で活動している14グループが集まって実行委員会をつくり、「絵本いっぱいおはなしいっぱい 東淀川わくわくフェスタ」を開催しました。実行委員には、生涯学習推進員協議会委員長の鳥居さんにも入っていただきました。この時は100名近くのボランティアが参加し、大盛況でした。フェスタが終わって、その反省会をしている場所に、東淀川区長が駆けつけてくださり、「来年度から予算をつけて、絵本の読み聞かせをします。みなさんぜひご協力ください」とあいさつがありました。

翌平成25年4月、東淀川区絵本読み聞かせ事業が始まりました。そのはじめに、「笑顔いっぱい、絵本いっぱいの東淀川」の言葉を必ず入れようとみんなで決めました。事務局としては、とことこが入りましたが、区内から募集した読み聞かせボランティアの中には、フェスタを一緒に作り上げた仲間たちが大勢参加していましたので、とても心強く思いました。

こうして始まった絵本読み聞かせ事業は、今年で早や4年目となりました。今では、区内のどこに行っても、「絵本」「読み聞かせ」という言葉が聞かれるようになり、読み聞かせが家庭や地域に定着してきたことを実感することも多くなりました。1歳6か月児の健診では、待合の間にボランティアが1対1で読み聞かせをしています。これを「ふれあい読み」とよんでいます。特に最近、父親のつきそいもよくみられるようになり、絵本を渡すとその場でお父さんが子どもに読んであげるといことも多くなりました。お家でも子どもに読んであげている人が増えています。「絵本がとっても好きなんですよ」という声や、「健診に行ったら絵本を読んでもくれる人がいて嬉しかった」「あれから家でもよく絵本を読んでいるんです」という声がよく聞かれるようになり、とても嬉しく思っています。

また、区の広報にも、昨年度はほとんど毎月のように載りました。絵本読み聞かせ事業のことが区内で広まっており、区民の方の関心度合いが高くなってきて感じております。

事務局としては、ボランティア活動とは違う責任の大きさに戸惑うこともありました。今から思えば冷や汗をかくようなこともありました。それでもとても楽しくここまで進めてこられたように思います。事業活動の受入先（派遣先）はどこもよく知ったところであったり、顔なじみの方がいたり、それまでの15年間のとことこの活動が、すべてそこにつながっていていることを感じています。

そして、私たちには、東淀川区での活動の大先輩の禪定先生、元府立図書館にお勤めだった脇谷先生という心強いお二人の存在があります。お二人は子どもたちに絵本を届けるということの大切さと、この活動の必要性をやさしく、そして厳しく、今日までご指導くださいました。

この先生方の研修や講演会を開きますと、ボランティアの皆さんは万障繰り合わせて参加され、その熱心な姿に、事務局としてその期待に応えていきたいという思いでいっぱいになります。そし

て、いつも素晴らしい笑顔でお母さんや子どもたちと絵本を楽しむボランティアの思いが、派遣先の皆さんにも伝わり、毎回とても喜んでいただいています。ボランティアの皆さんは、仕事や介護、お孫さんの世話、自身の病気など、さまざまな状況のなかで、それでも時間やりくりしてボランティア活動をされています。この事業の素晴らしいところは、子どもや保護者とボランティアとが、顔の見える関係であるということです。身近な地域の人が、気軽に絵本を読んでもくれる。絵本を通じて、そこにはいつも笑顔が生まれています。

区役所と、図書館と、ボランティアがこの事業を支えてきたこと、そして事務局として、これまでのボランティアとしての経験が活かされたことを今日この場でお話しさせていただいたことは、同じ思いで活動をしていらっしゃるボランティアの皆さんにとって、何かのお役に立てるのではないかなと思います。

最後になりましたが、この事業へのご協力についてはもちろん、いつもさまざまな依頼に対応してくださる図書館の職員みなさまに心からお礼申し上げます。ボランティアにさまざまな場を与えてくださる大阪市の図書館の素晴らしさは、全国に自慢できると思っています。

読み聞かせのボランティアとして、子どもたちの読書活動に関わって、こんなにも充実した幸せな時間が過ごせることに心から感謝し、私の報告を終わります。どうもありがとうございました。

— 意見交換 —

【学識経験者より】

久 隆浩（近畿大学教授）

私からは2点申し上げます。本とは違う角度になりますが、私の専門としている環境デザインやまちづくりの観点から述べさせてもらいます。

まず1点目は、子どもたちに図書館に来てもらうことが大事、そのためにデザインの発想を取り入れてみようということです。

飲食店、物販店で私たちはどういう店だと行きたくなるのか、店の側からいうと人を呼び込むかを考えると、図書館・室へのヒントになるのではないのでしょうか。居心地のよさや親しみやすさを演出するというのがキーワードになると思います。

学校図書館の実践例を見せていただきましたが、その中でまず印象的だったのは、本の表紙を見せて並べていることです。本の装丁、表紙のデザインというのはとても重要でして、クールな背表紙より情報の多い表紙を見せることで人をひきつけて、手に取る気にさせるということの重要性を感じました。

さらに、安東先生のご報告にもありましたが、テーマで展示をしているということです。シーズンにより展示図書が変わる。これはテーマパークと同じ発想で、いつ行っても、何か新しいものが見られるということになります。面白い工夫です。

それから、本のPOPの工夫です。お店の例で言いますと、最近、メッセージボードを店頭で設置しているところがあります。何のために置いているのかというと、店と客のコミュニケーションのためなんですね。外を通りかかった客にとっては、店の中が見えないとドアを開けるのに勇気があるものですが、メッセージボードがあればそのお店を身近に感じたり、メニューや価格が書いてあれば、どんなものが食べられるのかということや、中で何をやっているんだろうということがわかり、入ってみようという感じになります。これと同じように、本は読んでみないとどんなものかわからないのですが、本のPOPであったり、

メッセージカードに言葉をそえることで、本と人とのコミュニケーションを図る役割をしているということになります。身近に感じる、手に取って読んでみようという気を起させるものなんです。

このように、お店に人を呼び込むためのデザインの発想と、図書館に来てもらうための工夫としてのデザインというのは似ていると思います。今後の学校などでの図書館づくりの参考にさせていただけたらと思います。

2点目に、東淀川区役所の絵本読み聞かせ事業の取り組みをお聞きしましたが、本を通じて人とのコミュニケーションを図るということのもうひとつの例として、「まちライブラリー」についてお話しします。

だんだん増えてきましたのでご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、まちライブラリーは本棚を共有して互いに本を持ち寄り、本を通じてコミュニケーションを図っていこう、という活動なんですね。よく知らない人とでも、共通の話題があれば、例えば昨日テレビで見たドラマの話で盛り上がりコミュニケーションが図れたりしますね。それを本に置き換えて、この本読んだ？面白かったよ、と紹介したりして話をしていく、という感じです。コミュニケーションの手段としては本にもしかけがありまして、本にメッセージカードが添えられています。本を手にした人がそれを見て読む、また書くといったつながりを生んでいくのです。そこが面白いところだと思います。

一例として泉大津の「ホンノワ」を紹介します。これは、子育て中のお母さんが立ち上げた巣箱のような小さな本棚で、家の庭先などに設置しています。安東先生の発表の中で、墨江丘中学の学級文庫の写真が紹介されていましたが、巣箱図書館も同じように身近なところに本が存在する、これが大事です。ホンノワでは巣箱図書館を広げるとき、「本箱を置かせてください」というと管理が大変と思われるかもしれませんが、「本箱を置いてみませんか」と管理も主体的にできるようにする工夫を

して広げています。本について語る会や本の交換会など、本をきっかけにみんなが集まって何かをする、ということも行っています。本によるつながりを意識した仕組みがホンノワです。ホンノワの面白い点は2つありまして、1つは、地域の中に、小さくてよいから身近に本にふれる場所をたくさんつくっていくということ、もう1つは、本を読むことが第一目的ではなく、本を通じてのコミュニケーションを広げていきたいとしている点です。本を読む人が多く住む町となり、本好きの多さが本箱の数でわかるようになっていく、それがまちの魅力づくりや人とのつながりの役にも立っていくのではないかなとも思っています。本日お集まりの皆さんの活動も、本を通じて人とのつながり、コミュニケーションを生みだし、つなげていくという点を意識していくと、お仲間も増えていくのではないかなとも思っている次第です。

また、墨江丘中学校の中学生に読み聞かせしている報告があり、大変興味深かったです。Amazonのリストマニアには中学生向け読み聞かせリストもある時代です。読んだ本の共有化をして、大阪市なりの絵本、読み聞かせのリストができればよいのではと思いました。

最後に私の専門の環境問題、まちづくりのテーマからおすすめの絵本を2冊紹介します。『木を植えた男』（ジャン・ジオノ(著)フレデリック・バック(イラスト)寺岡 襄(翻訳)/あすなる書房)は、環境問題の本です。『しまったあー障害児教育創作教材ーゆめ編』（かわの ひでただ(著)おだ つとむ(写真)にしむらよしひこ(絵)/障害者問題総合誌「そよ風のように街に出よう」編集部)は、手が取れたお気に入りの人形をすてることから障がいを考える絵本です。このような社会問題の絵本もとりいれていただくと、視野を広げてくれると思います。

どうも本日はありがとうございました。

村岡益子（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

墨江丘中学校の安東先生、東淀川区の皆様、ご報告ありがとうございました。

もし、家族に中学生がいたなら墨江丘中学校へ行かせたい。もし、可能ならば東淀川区に引っ越したいと思いながら聞かせていただいております。

東淀川区がこの事業を始めるに至った背景をお聞きして、なるほどなあとなつていただきました。素晴らしい取り組みだと思います。

安東先生は、社会科の教員として日々の授業があり、進路指導主事としての仕事もある中で、今日の報告にあるような実践をされていることに感銘いたしました。中学生にも絵本の読み聞かせがとても大切であり、意義のあることだと教えていただきました。ぜひほかの中学校の先生方にも取り組んでいただきたいと思います。

私は、学校図書館スーパーバイザーという立場で、学校図書館の蔵書のデータベース化に向けてのアドバイスや、読書指導や探究的な学習の進め方などの指導助言等の仕事をさせていただいています。今日は、その中で感じたことや考えたことをお伝えしたいと思います。

子どもの読書の現状や学校図書館をめぐる動き・取り組みについては、地方自治体によりかなり違います。そして、学校によっても違います。

文部科学省は第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画を策定するにあたり、第二次計画期間における課題として挙げたのが、小学校高学年から中学、高校と学校段階が進むにつれて子どもたちが本を読まなくなっていることでした。ゆゆしき状態だと捉えています。

小さいころ読み聞かせをしてもらい、絵本を楽しんでいた子どもたちが、小学生になり学年が上がるにつれて、学校図書館から足が遠のいて読書をしなくなっていく現状があります。全国学校図書館協議会が年1回行っている学校読書調査でも、この年代の子どもたちが読まない傾向にあり、高校生だと1か月で1冊も本を読まない子が50パ

一セントを越えていることが数値として表れています。

この現状を解決するための方策はいろいろ考えられますが、まずは、読書の楽しさに気づかせる取り組みが大切だと思います。次に、読書の質を高めるための工夫です。ぜひ読んでほしいと思う本を子どもたちに手渡していくことが大事です。そして3つめは、読書環境を整えることです。

学校図書館の本をデータベース化し、貸出や返却の手続きを簡単にしたことで、利用者が倍増したという例もあります。短い休み時間の間にさっと来て、さっと返せて、借りられるということで、中学生たちが学校図書館を利用しやすくなります。データベース化はそういう面でも必要なのかなと思います。

私は、大学で教員を目指す学生と関わっていますが、教員になりたいと思っている学生に読書体験を聞くと、小学生までに読み聞かせをしてもらった経験があり、良かった、楽しかったという思い出を語る学生がたくさんいます。しかし、「中学生の3年間で学校図書館に1回も行ったことがない」と答える学生がかなりいるのです。驚きです。とても残念です。どうしてなのでしょう。

小学校の高学年にもなると、お家の人は「もう、一人で読めるでしょ」と読み聞かせをしなくなり、中学生にもなると、家庭で読書のことが話題になることもなくなると聞きます。

ある高校の先生に聞いてみると、中学校でも高校でも朝の読書の取り組みを勧めるなど読書環境は整えているが、それはあくまで学校生活の中だけの話で、家庭で読書の話をしているところは少ないであろうということでした。ただし、学校図書館をよく利用している読書好きの生徒は、家族と本についてよく話をしているとのことでした。

東淀川区のような実践が小学校、中学校での読書につながっていくといいなあと思います。もちろん読み聞かせのボランティアをされておられる皆さんは、保護者の方も巻き込んで日々実践しておられると思いますが、子どもだけではなく、子育て中の保護者の方にも読書にかかわっていた

だくことが子どもの不読率を改善するために重要だと思います。

学校図書館協議会の調査で、昨年、中学生・高校生にとっても人気のあったのは『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話』（坪田信貴（著）/KADOKAWA）でした。多くの子ども達が読んでいます。

子どもたちは読書や勉強の大切さについては分かっているのではないかと思います。ただ、現状としては、スマホやタブレットなどを一日に2時間、3時間以上使用していると答えた小学生が6%以上いたりしています。逆に、1日に1時間以上読書をする答えた高校生は5%ほどしかいません。データを見ると残念な結果はいっぱいあります。しかし、決して子ども達は読書嫌いではないと思います。自分の心を揺さぶってくれる一冊に出逢えていないだけだと思います。

最後に、ある中学校の読み聞かせボランティアの皆さんの取り組みを紹介したいと思います。

朝の読書の時間は10分間です。そこで、絵本を1冊読んだ後に、ボランティア自身が読んで、これは中学生に読んでほしいなと思った物語等の本の紹介をするという取り組みです。

ボランティアの方にとっては、とてもハードルが高いと思われるかもしれませんが、是非、チャレンジしてみてください。特に小学校高学年や中学生には、絵本の読み聞かせだけではなくて、物語の本についての紹介も取りいれていただき、本の良さや読書の楽しさを伝えていただけたらと思います。

本日はどうもありがとうございました。

【大阪市生涯学習推進員協議会より】

鳥居光子

(大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長)

これまで何回かこの連絡会に出て、読書の素晴らしさを感じています。私自身も東淀川区で子どもの読書活動にかかわっていて、小学校で読み聞かせをしています。東淀川区の事業は区民として誇らしいです。

中学校での実践例をうかがって、先生が生徒に読書の大切さを伝えておられて、なんと幸せな子どもたちだろうと思いました。先生が読み聞かせされているのをお聞きして、私が小学生に読んだことがあるような絵本でも、中学生も喜ぶのだと実感しましたし、小さいころから読み聞かせをしてもらってきたことが基礎となって、中学校へとつながっているんだなと思いました。今日はよい発表が聞けてうれしかったです。ありがとうございました。

野田三重子

(大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長)

本日はすてきな発表を聞かせていただきまして大変参考になりました。

私が自分の息子たちに読んでいたのはずいぶん前のことになりますが、思い出していました。今、読み聞かせをしてもらっている子どもたちが、将来、次の世代に読み聞かせをしてくれるように育てられていって良かったらいいなと感じました。

足立浅美

(大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長)

本日はありがとうございました。報告をお聞きしまして、「本っていいよ」ということを子どもたちは手を広げて待っていてくれているのだと感じました。そして、先生やボランティアのみなさんがいろいろ工夫をされながら、本って楽しいよ、ということ伝える活動をされているのに驚き、感動をいたしました。

今日の報告者に共通していたのは、「楽しむ」という言葉だったと感じました。本当に、これから、

私自身も本を楽しみながら、そして私の子どもはもう大きくなってしまいましたので孫の世代に、「本って楽しいよ」と伝えていきたいと思っています。

座長(宮田)

ありがとうございました。

では、これまでの報告に対して、ご意見、ご質問をいただければと思っておりましたが、すでに閉会の時間が迫っております。もしここでどうしてもという方がおられましたら挙手していただきたいのですが、どなたかいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。時間の都合上、申し訳ございませんでした。

先ほど久先生が紹介された本を前にご用意しております。ご覧になりたい方がいらっしゃいましたら、会の終了後、ぜひお手に取ってご覧ください。

以上をもちまして、「平成28年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会」の議事はすべて終了しました。みなさま、議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。